

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」.....

たまちゃん通信

平成 28 年 4 月発行 76-2

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号
TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311
e-mail:honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

「文化愛媛」に宮中会長のエッセイを掲載

愛媛県が発行する機関誌に「お手玉の魅力」

愛媛県の文化を紹介する機関誌『文化愛媛』（愛媛県文化振興財団・年 2 回刊）の最近号が、3 月に発行されました。機関誌の「エッセイ」のページに、日本のお手玉の会の宮中雲子会長の「お手玉に賭ける想い」を綴られていますので、ご紹介します。

『お手玉遊びに魅せられて』 宮 中 雲 子

お手玉は幼いころの遊びとして、一度はわたくしの生活から離れましたが、平成 4 年に新居浜市のアメニティ倶楽部の方から、「まちづくり」の一環として「お手玉の会」を立ち上げ、全国発信するから一緒にどうかとお誘いがあり、5 個のお手玉が送られてきました。そこから再び私のお手玉への想いが復活したのです。

最初の集まりでは「いま、なぜお手玉遊びなの」というテーマでシンポジウムをしました。

そして、日本の伝統的文化の所産であるお手玉遊びを絶滅危惧種にしているものかとの信念のもと、新居浜市を拠点に「日本のお手玉の会」を発足させたのです。

お手玉遊びは日本だけでなく、世界の各地に似た遊びがあることがわかり、フランスから、羊の距骨を乾燥させ、彩色したお手玉が入手出来た時の驚きといったらありませんでした。

正倉院の宝物に日本最初のお手玉があると知り、東京上野の博物館で展示された時は急遽見に行きました。「石名取玉」という立方体に仕上げた水晶の玉が 16 個、箱に納められていて聖徳太子の遊具ではなかったかと書かれていました。

現在使われているような、布で包んだものが用いられる江戸時代後半からで、私達が子供の頃は、冬の遊びはもっぱらお手玉でした。もう一度、あの頃の勢いを取り戻したいと活動するものの、なかなか難しく、果ては忘れ去られようとしていたのです。

それを救ってくれたのは、科学的にお手玉遊びの優れた面が見いだされたことによると思います。お手玉遊びをすることにおける脳の活性化です。

運動神経の鈍ってくる老人も、お手玉遊びによって、生き生きしてきます。やっとあちこちで、お手玉遊びが認知されてきたのです。

来る 2020 年のオリンピックでは、オリンピックの会場を、大勢でお手玉をゆりながら行進出来たらと、夢を膨らませています。

